

2024年12月2日（月）食料醸界新聞

パッケージジサラダを製造するサラダクラブは千切りキャベツの容量とパッケージデザインを10月5日の店着分から変更した（北海道・沖縄県を除く全国）。レギュラーサイズを130gから120g、ビッグパックを280gから260g、スーパービッグを450gから410gに減量し、参考税別売価はそれぞれ100円、189円、298円に据え置いた。

サラダクラブ 内容量とデザイン変更 安定供給のため商慣習変化を



金子社長

パッケージデザインは正面上部左側に赤に白抜きで「加工日から5日間ご利用いただけます」を「あれば安心便利をストック」と変更し、冷蔵庫のイラストを

加えた。中央部には消費期限と加工年月日、内容量、原産地などを印字した。減量は、2017年秋の台風や長雨などの影響でキャベツを中心に野菜が不作となった18年に一時的ではあったが、今回はそれに続き2度目となる。現在もキャベツの相場が高騰し、千切りキャベツの需要が急増。安定供給するには減量して販売量を確保する必要があったと説明する。金子俊浩社長は製造工場の現状に触れ、「野菜の品質が若干低下し、商品として使用できる量が減少。結果、作業

量が増え、製造現場の残業時間が増加している。需要が増えて契約数量に上乗せして原料を追加注文している。10、11月は売り上げが増えたものの、損益分岐点が高くなり利益は厳しい」と語る。

パッケージジサラダおよびカット野菜業界が将来、持続的な成長を実現していくには商慣習の変化が必要と金子社長は強調する。来年以降は原料確保のため業界全体でダイナミックプライシングやオープンプライスを導入する議論が重要という。